

平成 18 年 4 月 29 日（祝）にダイヤ改正を実施

～ 中部国際空港駅 2 面 3 線化と空港線開業後の輸送状況を受け実施～

名古屋鉄道は、空港線開業後の輸送状況を受け、これまでお客さまセンターなどに寄せられたご意見・ご要望を参考に、より便利で使いやすい輸送サービスの提供を目指し、4 月 29 日（祝）から名古屋本線・常滑線・空港線のほか全線においてダイヤ改正を実施します。

今回のダイヤ改正では、空港アクセス特急 2000 系「ミュースカイ」の増備と中部国際空港駅の 2 面 3 線化を活用した「輸送力増強」と「空港アクセスの利便性向上」、及び「接続改善」や「列車増発」、「最終電車の繰下げ」などにより利便性の向上を図ります。

今回の改正の主なポイントは下記の 3 点です。

1 ミュースカイ増備と中部国際空港駅 2 面 3 線化による輸送力増強

- (1) 「ミュースカイ」増備による 4 両組成化と荷物置場の拡幅
- (2) 特急及び急行の所要時間の短縮（2 面 3 線化効果）
- (3) 常滑発着の普通を中部国際空港発着に運転区間延長（2 面 3 線化効果）

2 空港アクセスの利便性向上

- (1) 西尾線など各支線から中部国際空港への早朝到着時間の繰上げ
- (2) 名鉄岐阜・新鵜沼～中部国際空港間でミュースカイの増発や運転区間を延長
- (3) 中部国際空港～金山発着の一部特別車特急を名鉄名古屋まで区間を延長し運転

3 一般路線の「接続改善」、「列車増発」、「最終電車の繰下げ」による利便性向上

- (1) 乗り継ぎ時間の短縮や接続の改善による所要時間の短縮
- (2) 平日夕・夜間帯に名古屋方面から犬山方面の特急を増発
- (3) 三河線・豊田線で最終電車の運行時刻を繰下げ

1 ミュースカイ増備と中部国際空港駅2面3線化による輸送力増強

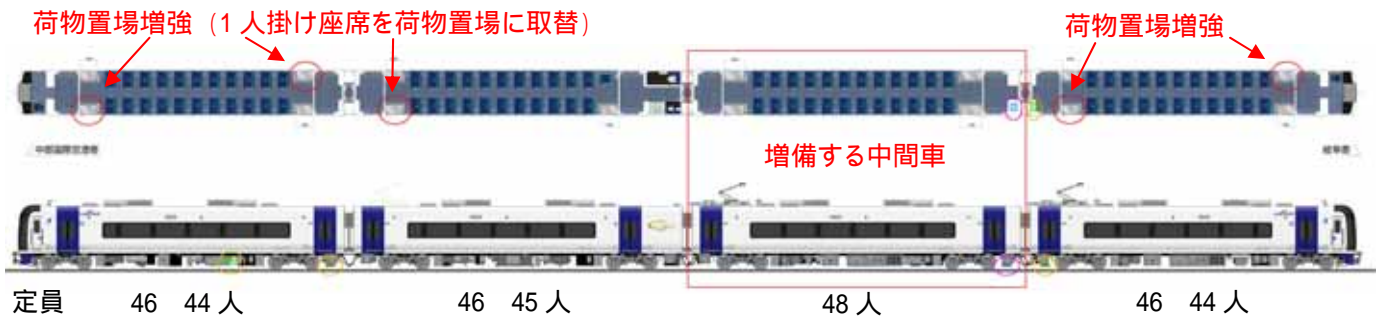
(1) 「ミュースカイ」増備による4両組成化と荷物置場の拡幅

ダイヤ改正に先駆けて、4月17日(月)から新造の「ミュースカイ」(4両組成×2編成)の運転を開始するほか、既存の3両組成・10編成に新造した中間車を組み込んで4両組成化し、輸送力の増強を図ります。ダイヤ改正時には、現行10編成のうちの2編成を4両化し、新造の2編成と合わせ当面4編成を4両組成で運行しますが、7月上旬には12編成全てを4両化する予定です。

なお、4両化に伴い各車両の身障者用座席を除く一人がけ座席を荷物置場に変更します。現在3両組成で6箇所(1両当たり2箇所)の荷物置場が4両組成で15箇所(1両当たりほぼ4箇所)に増加します。このほか新造する中間車の荷物置場は、従来の間口1メートルから間口1.25メートルに拡幅しており、合わせると1編成当たりの荷物置場の収容能力は約3倍となります。

この4両化と荷物置場の変更に伴い、1編成あたりの乗車定員は従来の3両組成・138人(46+46+46)から4両組成・181人(44+45+48+44)となり、1編成当たり43人(約31%増)定員が増加します。

< 新造する4両組成の図 (既存の3両組成も、新造する中間車1両を組み込み同仕様に改造する) >



(2)特急及び急行の所要時間の短縮

< 平日・土休日 > ~ 中部国際空港駅 2 面 3 線化効果 ~

空港線の輸送力向上を目指し、中部国際空港駅の既設増線用スペースに線路や電路設備などを敷設する工事を昨年 10 月 20 日(木)から行っていますが、ダイヤ改正日から「ミュースカイ」専用ホームとして供用を開始します。

供用開始後は、「ミュースカイ」専用ホームを 1 番ホームとし、現在の 1 番ホームを 2 番ホーム、同じく 2 番ホームを 3 番ホームに名称を変更します。

これにより、車両の柔軟な運用が可能となり、中部国際空港～金山・名鉄名古屋間で一部特別車特急及び急行の所要時間短縮を図ります。中部国際空港駅を 9 時～22 時台に発車する一部特別車特急では 2 分短縮し、中部国際空港～名鉄名古屋間の所要時間は 35 分または 38 分となります（土・休日の一部時間帯では 3 分短縮し、空港～金山間は 31 分となる）。また、中部国際空港駅発の急行では 2 分～1 分、名古屋方面から中部国際空港に向かう急行では 3 分～1 分所要時間を短縮します。

詳細は下表のとおりです。

< 所要時間の短縮 改正後 平日 >

発駅（方面）	行先(方面)	種別	時間帯（発駅基準）	短縮時間	変更本数
中部国際空港	名鉄名古屋	特急	9 時～16 時	2 分	14 本
中部国際空港	名鉄名古屋	特急	16 時 30 分～22 時 30 分	2 分	13 本
中部国際空港	名鉄名古屋	急行	10 時台～15 時台	2 分	11 本
中部国際空港	名鉄名古屋	急行	16 時台～21 時台	1 分	12 本
名鉄名古屋	中部国際空港	急行	9 時台～12 時台	3 分	6 本
名鉄名古屋	中部国際空港	急行	12 時台～22 時台	1 分	20 本

< 所要時間の短縮 改正後 土休日 >

発駅（方面）	行先(方面)	種別	時間帯（発駅基準）	短縮時間	変更本数
中部国際空港	金山	特急	8 時台	3 分	2 本
中部国際空港	名鉄名古屋	特急	9 時～16 時	2 分	14 本
中部国際空港	名鉄名古屋	特急	16 時 30 分～22 時 30 分	2 分	13 本
中部国際空港	名鉄名古屋	急行	9 時台～21 時台	2 分	25 本
名鉄名古屋	中部国際空港	急行	7 時台	2 分	2 本
名鉄名古屋	中部国際空港	急行	8 時台～12 時台	3 分	9 本
名鉄名古屋	中部国際空港	急行	12 時台～16 時台	1 分	9 本

- (3) 昼・夕間帯の常滑発着の普通を中部国際空港発着に運転区間を延長
< 平日・土休日 > ~ 中部国際空港駅 2 面 3 線化効果 ~

平日の太田川 9 時台 ~ 12 時台発普通常滑行きの 6 本、休日は同駅 8 時台 ~ 12 時台発の 8 本を中部国際空港行きに延長運転するほか、平日・土休日の常滑 17 時台 ~ 21 時台発普通太田川行きの 10 本を中部国際空港発に発駅変更します。

2 空港アクセスの利便性向上

- (1) 西尾線・三河線海側(知立~碧南間)・尾西線・竹鼻線・各務原線等支線区から中部国際空港駅への早朝到着時間の繰上げ
< 平日・土休日 >

早朝、空港に到着する時間を早めるため、西尾線・三河線海側(知立~碧南間)・尾西線・竹鼻線・各務原線において、中部国際空港行きに接続する初列車を増発または発車時間を繰り上げます。これにより西尾駅・碧南駅などの例では、現行と比べ平日で 34~19 分、土休日で 37 分~19 分早く空港に到着することが可能となります。(所要時間は概算)

- (2) 名鉄岐阜・新鵜沼~中部国際空港間でミュースカイの増発や運転区間を延長
< 平日・土休日 >

お客様からご要望が多かった早朝時間帯における岐阜・一宮方面からの空港アクセス輸送力の充実を図るため、名鉄岐阜 6:03 発快速特急「ミュースカイ」中部国際空港行きを増発します。また、犬山方面からの利便性向上のため、現在の名鉄名古屋 6:02 発快速特急「ミュースカイ」中部国際空港行きを新鵜沼 5:31 発に発駅変更します。

このほか、夜間帯に空港から犬山方面に向かう旅客の利便を図るため、中部国際空港 20:20、21:20 発快速特急「ミュースカイ」名鉄名古屋行きを新鵜沼行きに着駅変更します。

<増発・区間変更するミュースカイ>

内容	発 駅		名鉄名古屋駅		着 駅
全区間 増発	名鉄岐阜 6:03 発		6:30 発		中部国際空港 7: 02 着
発駅変更	新鵜沼 5:31 発	(この間延長)	6:02 発		中部国際空港 6: 34 着 (土休日は6:32着)
着駅変更	中部国際空港 20:20 発 21:20 発		20:50 着 21:50 着	(この間延長) (この間延長)	新鵜沼 21:21 着 22:21 着

(3) 中部国際空港～金山発着の一部特別車特急を名鉄名古屋まで運転区
間を延長

<平 日・土休日>

中部国際空港～金山発着の一部特別車特急のうち、中部国際空港 16 時台～21 時台発の金山行き 10 本を名鉄名古屋行きに変更します。また、金山 17 時台～21 時台発中部国際空港行き 10 本を、名鉄名古屋発に変更します。これにより、17 時台～20 時台の場合、名鉄名古屋～中部国際空港間を直通運転する列車は上下とも毎時 4 本でしたが、改正後は毎時 6 本となります。

3 一般路線の「接続改善」、「列車増発」、「最終電車の繰下げ」など

(1) 乗り継ぎ時間の短縮や接続の改善による所要時間の短縮

ア **尾西線** 名鉄名古屋 森上・玉ノ井方面への接続改善

<平 日・土休日>

名鉄名古屋方面から名鉄一宮で乗り換え尾西線森上方面に向かう場合、名古屋本線の快速急行または急行が尾西線に接続していましたが、夕間帯以降はこれを快速特急(一部特別車)または特急により接続を図るように変更します(平日は名鉄一宮 17 時台～22 時台発普通津島行きの 21 本、土休日は 17 時台～21 時台の 20 本に接続)。この変更で名鉄名古屋～森上間の所要時間を 18 分短縮します。

また、名鉄名古屋方面から名鉄一宮で乗り換え尾西線玉ノ井方面に向かう場合、名古屋本線の快速急行が接続していましたが、これを快速特急（一部特別車）により接続を図るように変更します（平日は名鉄一宮 9 時台～21 時台発普通玉ノ井行き 26 本、土休日は 9 時台～22 時台の 28 本に接続）。この変更で名鉄名古屋～玉ノ井間の所要時間を 7 分短縮します。

イ **豊川線** 豊川稲荷 名古屋方面・豊橋方面への接続改善

< 平日・土休日 >

豊川稲荷から名古屋方面へは、これまで豊川線の普通国府行きが終点国府で名古屋方面の急行に接続していましたが、豊川稲荷の発車時間を繰り上げることで、特急による接続に変更します（平日は豊川稲荷駅 10 時台～21 時台発の 24 本、土休日は同駅 7 時台～19 時台発の 24 本）。これにより豊川稲荷～名鉄名古屋間の所要時間を最大 7 分短縮します。

また、豊川稲荷発名鉄岐阜行き快速急行及び急行の発車時間を繰上げ、国府で豊橋行き急行との接続を図ります（平日は 10 時台～21 時台の 23 本、土休日は 7 時台～21 時台の 29 本）。これにより豊川稲荷～豊橋間の所要時間を 6 分短縮します。

ウ **常滑線・河和線** 名鉄名古屋から、太田川発普通への接続を改善

< 平日・土休日 >

金山 17 時～21 時台発一部特別車特急中部国際空港行きを名鉄名古屋発に発駅変更するのにもない、同列車を利用した太田川での常滑線または河和線の普通への接続を図ります。これにより従来の名鉄名古屋 太田川間急行利用時と比べ、名鉄名古屋 長浦（常滑線）間の場合、所要時間を 5 分短縮します。また、名鉄名古屋 高横須賀（河和線）間の場合、同じく所要時間を 13 分短縮します（河和線は平日のみ）。< なお、一部時間帯において短縮時間が異なる場合があります >

(2) **犬山線** 平日夕・夜間帯に名古屋方面からの特急を増発

< 平日 >

名古屋から犬山方面の夕方から夜間にかけての利便性向上を図るため、平日に神宮前 22：45、23：15 発全車特別車特急新鵜沼行きを増発します。あわせて、内海 16：59、18：00、19：00 発全車特別車特急名鉄名古屋行きを新可児まで延長運転します。

(3) **三河線・豊田線** 最終電車の増発や運行時刻を繰下げ

<平 日・土休日>

豊田市からの最終電車発車時間を繰下げのため、猿投 23:04 発(豊田市 23:25 発)普通知立行きを増発します。これにより、豊田市では知立行き最終電車の発車時間が 18 分繰り下がります。また、赤池 23:48 発普通上小田井行きを豊田市 23:26 発に発駅変更します。これにより豊田市から上小田井への最終電車の発車時間が 25 分繰下がります。

このほか、三河線では、知立発碧南行き最終電車を知立 23:33 発から 23:40 発に 7 分繰下げます。

<豊田市からの最終電車発車時間の繰下げ>

	改正前最終電車	改正後最終電車	繰下げ時分
知立行き	23:07 発	23:25 発	18 分
上小田井行き	23:01 発	23:26 発	25 分

(4) **知多新線** 美浜緑苑に平日朝・夕間帯の特急を特別停車

<平 日>

通勤時間帯の利便性向上を図るため、平日の内海 6:10、7:12、8:28 発全車特別車特急名古屋方面行き 3 本と、新鵜沼 16:45、17:45、18:45 発全車特別車特急内海行き 3 本の計 6 本を美浜緑苑に特別停車します。

その他 ~ 輸送の効率化 ~

輸送需要を考慮し、弥富発知立行き準急のうち、平日の豊明 10 時~17 時台発の 14 本、土休日の 8 時~22 時台発の 30 本を豊明止まりに区間短縮します。また、平日の吉良吉田 9:51 発全車特別車特急名鉄名古屋行きを西尾発に発駅変更します。

このほか、三河線のワンマン運行区間をこれまでの山側(猿投~知立間)に加え、海側(知立~碧南間)にも拡大します。

* 4 月 29 日からのダイヤは、名鉄ホームページ(<http://www.meitetsu.co.jp/>)で 3 月 10 日から順次閲覧いただけます。
また、ポケット時刻表は 3 月末~4 月上旬配布見込みのほか、販売用時刻表は 3 月中旬~下旬発売開始の見込みです。

以上